

神奈川県てんかん支援拠点病院からの報告



聖マリアンナ医科大学病院神奈川てんかんセンター
太組 一朗 石丸 貴子

2022.12.11 2022年度第2回全国てんかん対策連絡協議会

聖マリアンナ医科大学病院 神奈川てんかんセンター

てんかん診療構成メンバー

小児科医 9名（専門医7名・非常勤含む）
脳神経外科医 2名（専門医2名）
脳神経内科医 1名
精神科医 1名
救急医 1名

てんかん診療検査

長時間ビデオ脳波 EEG MRI SPECT 各種心理検査

てんかん外科手術

海馬切除術、側頭葉切除術、
病巣切除術、皮質切除術、
葉切除（前頭葉、後頭葉）
多脳葉切除 半球離断術 脳梁離断術
迷走神経刺激装置設置術
頭蓋内電極植込術



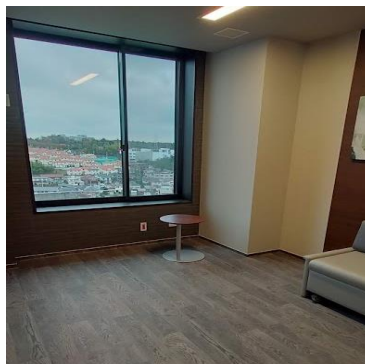
長時間ビデオ脳波検査

現在 成人2床、小児1床

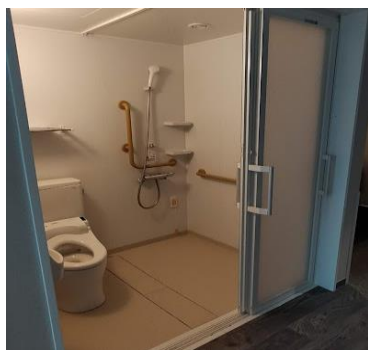


2023.1～新病院

成人4床、小児2床
救命Cでも実施可能となる

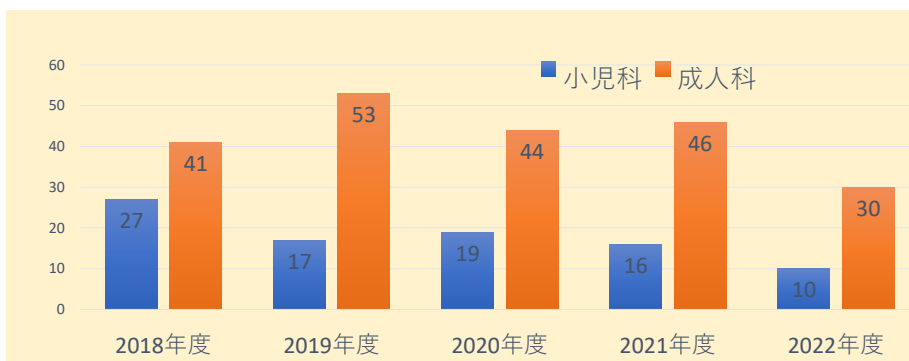


※ベッド搬入前



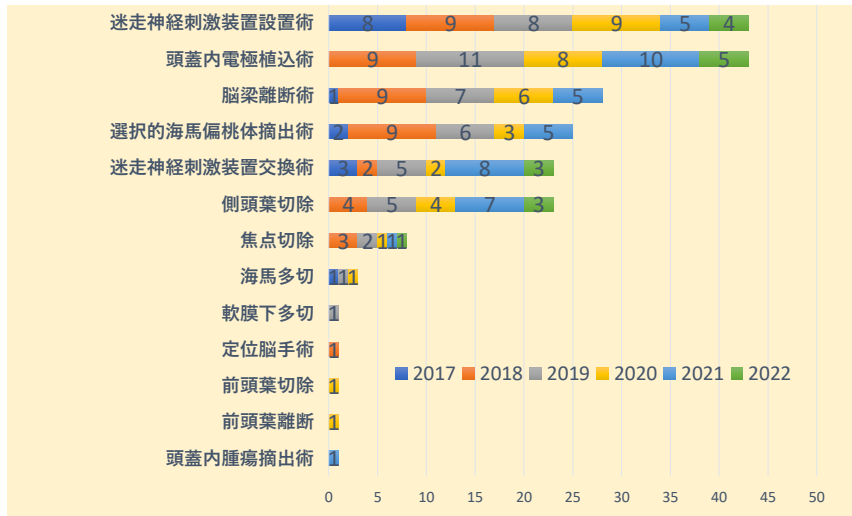
トイレ、シャワールーム完備、
8階に位置し、眺めの良い個室。

長時間ビデオ脳波モニタリング実績 2022年11月まで



	小児科	成人科	合計
2018	27	41	68
2019	17	53	70
2020	19	44	63
2021	16	46	62
2022	10	30	40
合計	89	214	303

てんかん外科手術 ～2022年11月実施分まで



年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
件数	15	46	45	33	41	22	202

事業で実施したてんかんの研修会・市民公開講座

年度	テーマ	実施形態・場所	対象	参加者	
2021	てんかんの診断と治療、手術に向けての検査	Zoomウェビナー YouTubeオンデマンド	専門職	306	
	てんかんと就労		一般の方		
	てんかんと薬	Zoomウェビナー YouTubeオンデマンド	専門職	351	
	幼稚園、学校などにおけるてんかん発作の対応		一般の方		
2020	知っておきたいてんかんと関連する精神症状	Zoomウェビナー YouTubeオンデマンド	専門職	348	
	正しく知って、てんかん		一般の方		
	てんかん治療の最前線	聖マリアンナ医科大学講堂	専門職	195	
2019	こどもにみられるてんかん	YouTubeオンデマンド	一般の方	170	
	てんかんと薬		神奈川県総合医療会館		専門職
	難治てんかんの外科手術				一般の方
	おとなのてんかん				
こどものてんかん					
2018	てんかん発作観察のポイント	小田原お堀端コンベンションホール	専門職	139	
	難治てんかんの外科手術		一般の方		
	こどものてんかん				
	おとな、高齢者のてんかん	横須賀市勤労福祉会館	専門職	82	
	精神科でみるてんかん		一般の方		
	こどもとおとなの難治性てんかん				

行政等と共同で実施

年度	内容	主催	テーマ	対象者	参加人数
2020	支援者のためのてんかん研修会	川崎市と共同で実施	てんかんの正しい理解と患者支援について	川崎市内の福祉職	40
			てんかんに合併する精神症状		
2019	就労援助者のためのてんかん研修会	神奈川県と共同で実施	てんかん患者支援のポイント	県内ハローワーク職員	43
			てんかんがある方の就労問題とは		
	てんかんの研修会	神奈川県と共同で実施	大人のてんかん患者支援	県内の福祉職	95
			こどものてんかん		
	市民講座 てんかんと就労を考える	厚生労働省、国立精神神経医療研究センターと共同で実施	全国てんかん対策連絡協議会の取り組み	一般の方	100
			てんかんという病気とその理解について		
			てんかん、精神障害の方の雇用に関する取り組み		
			てんかんの方への就労支援		

2023年1月11日

神奈川県と共同でハローワーク職員を対象にてんかんと就労に関する研修会を実施予定

講師の派遣

年度	内容	主催	参加者
2022	てんかんの研修	ぶどうの木 (障害者共同生活支援事業・グループホーム)	施設職員
2021	てんかんに正しく知ろう	川崎市福祉職向け現任研修	川崎市内福祉職員
2019	てんかんの研修	貴峯荘(障害者支援・入所施設)	施設職員
2018	てんかんの研修	相模原市研修	相模原市職員

てんかんの研修会 市民公開講座 WEB開催 要申し込み

【同時開催】難治てんかん患者さん個別WEB相談会

実施日時 2022年11月20日(日)
13:00~15:15

Zoomウェビナーオンライン開催 ※後日YouTubeにてオンデマンド配信予定
【てんかんの研修会】
※主に学校、医療、福祉関係者等を対象とした内容ですが、どなたでもご参加いただけます。

13:00~13:45 質疑応答 13:45~14:00 ※チャット機能でご質問をお受けします

座長 岩崎 俊之 先生 聖マリアンナ医科大学 小児科学教授
川崎市立多摩病院 小児科部長

講師 須貝 研司 先生 聖マリアンナ医科大学 小児科学専攻教授
フレイユ川崎 副施設長

「学校でのてんかん発作の対応」

【てんかんの市民公開講座】

14:15~15:00 質疑応答 15:00~15:15 ※チャット機能でご質問をお受けします

座長 野々田 豊 先生 北里大学医学部 小児科学講座
小児科 小児発症受療部門

講師 山本 寿子 先生 聖マリアンナ医科大学 小児科学講座
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 小児科医長

「てんかんと発達障害」

研修会・市民公開講座お申し込み・お問い合わせ

専用フォームURLがQRコードからアクセスしお申し込み下さい。
https://us02web.zoom.us/join/register?WJN_KynS3ScpnGze2d0tPz-Fd4kay

【問い合わせ】 聖マリアンナ医科大学病院 てんかんセンター
電話：044-977-8111（内線80605）担当石丸（月～金 9:00～16:00 祝日を除く）
メール：tenkankouza3@fzmail.com

【難治てんかん患者さん個別WEB相談会】※Zoom使用 研修会・公開講座とは別途完全予約制
てんかん専門医による難治てんかん患者さんへの個別相談会を定例開催いたします。
10:00~12:00の間で各10分程度、最大15分程度、定時に1枚の枚数予約終了

担当医：須貝 研司 先生（聖マリアンナ医科大学 小児科学専攻教授・フレイユ川崎副施設長）
大庭 一樹 先生（聖マリアンナ医科大学 脳神経外科教授・てんかんセンター 副センター長）

専用フォームURLは、各センターからアクセスしお申し込みください。
個別相談会専用申し込みフォーム：<https://forms.gle/69B8Cv5CPQwGk5SN>

主催：神奈川県てんかん医療・社会連携協議会 聖マリアンナ医科大学病院（神奈川県てんかん支援拠点病院）
後援：公益社団法人神奈川県医師会 公益社団法人日本てんかん協会神奈川県支部

申込者 503名
当日視聴者 277名

申込者内訳

学校関係者	172
福祉関係者	111
患者家族	92
医師以外の医療従事者	74
保育関係者	11
行政関係者	10
患者本人	9
医師	8
その他	16

神奈川県との協力を得て県から教育委員会へ通知し、教育委員会から各市町村の小、中、高、養護学校、支援学校へ文書回覧、メール通知等で周知した結果、学校の先生が多数参加した。

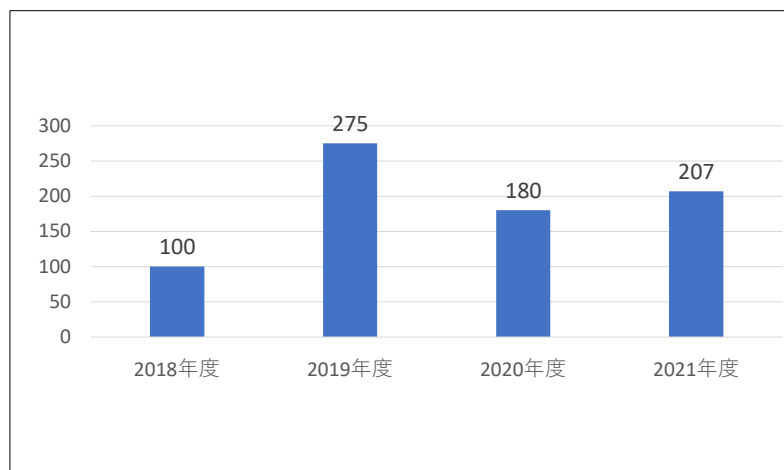
神奈川県てんかん医療・社会連携協議会構成 支援拠点病院に対する運営アドバイスを目的とした合議体

属性	人数
支援拠点病院医師	5
県内のてんかん治療に関わる医師	10
地域医療に関わる医師（医師会）	1
労働問題に関わる専門職（労働局）	1
社会福祉に関わる専門職	1
当事者・家族	2
県、政令市・精神保健センターの代表	5

計25名

てんかん相談件数

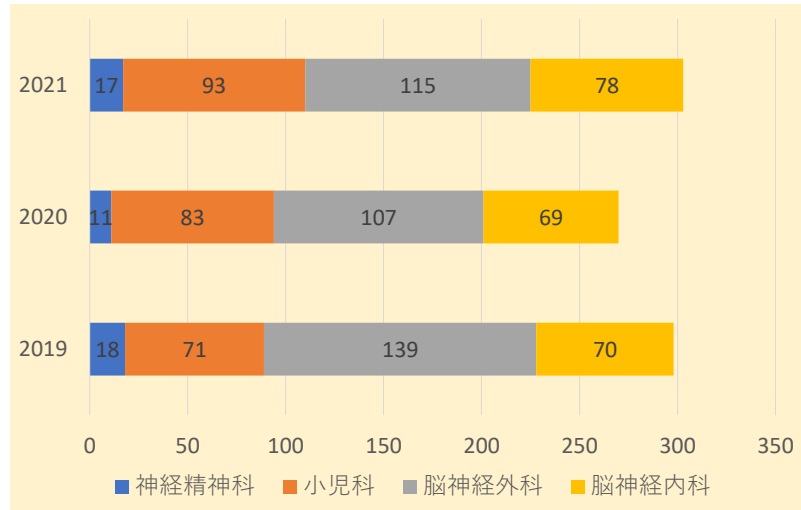
てんかん診療支援コーディネーター対応
(1名、専任、常勤、社会福祉士)



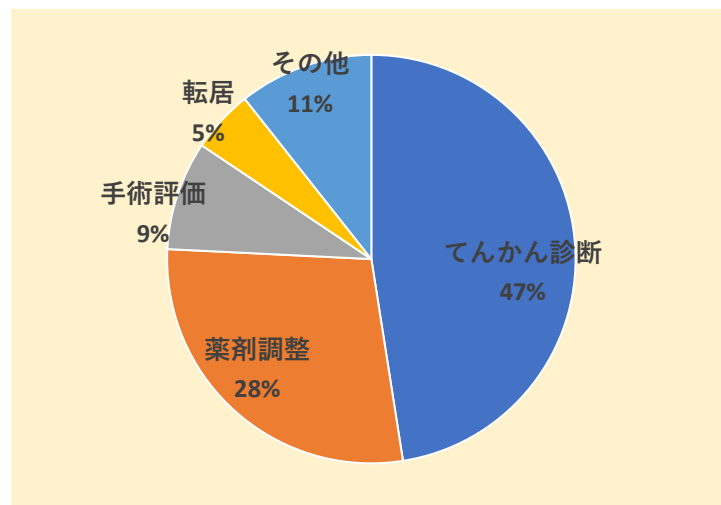
2021年度相談内容と対応

相談内容	件数	対応	件数
てんかんセンター受診希望	64	情報提供	96
診療相談 (症状に関する事)	36	脳神経外科受診案内	31
個別相談会事前相談	19	医師に確認後返答	21
受診先相談	16	専門医案内	16
CBDについて	11	個別相談会対応	15
就学・就労相談	8	小児科受診案内	11
生活・学校生活に関する相談	8	脳神経内科受診案内	11
セカンドオピニオン	5	話を聞くのみ	3
紹介に関する相談 (医師・連携室等より)	5	神経精神科案内	1
受診前の相談	5	移行期として対応	1
モニタリング希望	4	SWへ引き継ぐ	1
コロナワクチン	3	合計	207
薬に関する相談	3		
運転免許	3		
診断書希望	3		
転院相談 (入院)	2		
制度についての相談	2		
検査について	2		
手術希望	1		
移行期	1		
その他問い合わせ	6		
合計	207		

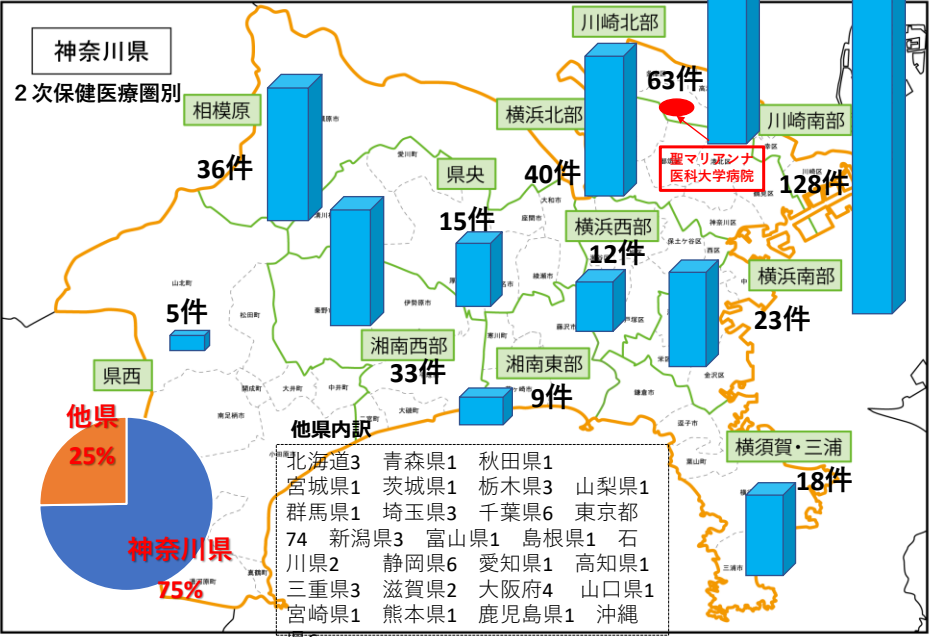
てんかん新患紹介患者数



てんかん新患患者受診目的 2019～2020 N = 545



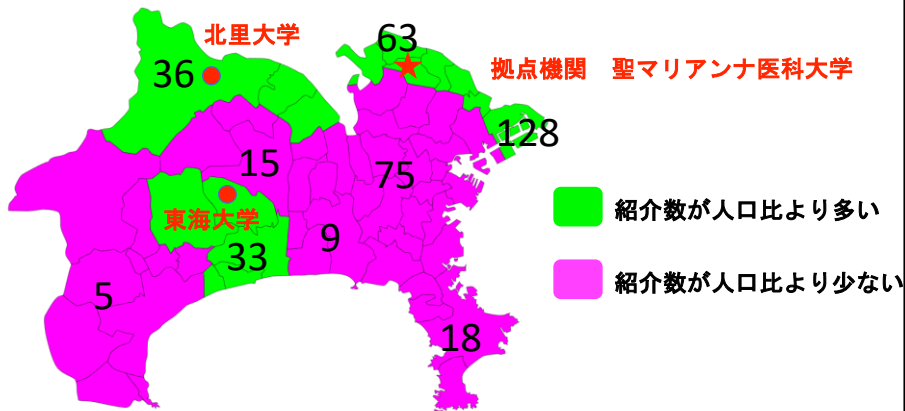
神奈川県内紹介元分布 2017年10月～2021年5月
 (総数件511 神奈川県内382件 県外129件)



診療

N=511

太組一朗宛 てんかん紹介状 二次医療圏分析
 2017年10月～2021年5月 県内382件 県外129件



三次医療圏内均てん化が継続的課題

てんかん症例脳波カンファレンス

毎週金曜日WEB実施 2019年1月～ 12/9までで153回開催
11施設 53名 医師、多職種参加

施設名	小児科	脳神経外科	脳神経内科	精神神経科	救命救急	コメディカル (看護師、薬剤師、臨床検査技師、SW、コーディネーター)
聖マリアンナ医科大学病院	5 (専門医3、内指導医3)	2 (専門医2、内指導医1)	3	3	2	22
川崎市立多摩病院	2 (専門医2、内指導医1)					
聖マリアンナ横浜市西部病院	1 (専門医1、内指導医1)					
沖縄赤十字病院	1 (専門医1、内指導医1)	3 (専門医2、内指導医1)				
山梨大学		2				
信州大学		1				
金沢脳神経外科		1				
日本医科大学 武蔵小杉病院				1 (専門医1、内指導医1)		1
三井記念病院		1				
いくせいかい診療所			1 (内科)			
湘南東部総合病院						1

山本班分担研究 太組班分担研究CBD

知的障害者通所施設 (北九州市手をつなぐ育成会)

調査参加者 太組一朗・饒波正博・嘉手川淳・石丸貴子

聞き取り等による病歴・治療実態調査

審査結果通知書

てんかんセンター
院長 北 日 林 進 日 郎

聖マリアンナ医科大学
学長 北 日 林 進 日 郎

さきに表紙より申請のあった臨床試験について生命倫理委員会でご審議し、下記のとおり判定したものとさせていただきます。

記	
承認番号	第 4907 号
承認日	2020年8月20日
実施の期間	承認後 ～ 2021年3月31日
主査(実施者)	大学、大学病院
依頼者	なし
判定の結果	承認

第1回現地調査
第2回現地調査

令和2年9月26日
令和3年3月21日

結果 知的障害者通所施設 (北九州市手をつなぐ育成会)

第1回現地調査 令和2年9月26日

男性利用者 148名
「てんかん」 34名 (23%)

うち8名に対する対面調査 (40歳～63歳 平均46.4歳)

- 非てんかん2 (本態性振戦1, その他振戦)
- 診断不能1
- 薬剤調整必要5
- ベンゾジアゼピン長期内服1 (CZP 3mg/day, 単剤20年間)
- 担当医属性がまちまち
(e.g. 80歳台の担当医が複数名を担当)

結果 知的障害者通所施設 (北九州市手をつなぐ育成会)

第2回現地調査 令和3年3月21日

男性利用者 148名
「てんかん」 34名 (23%)

7名 (男性5名女性2名) 対面調査 (31歳～60歳, 平均45.7歳)

- 非てんかん1 (シンコピー)
- 判定不能2
- 治療終了の可能性1
- ベンゾジアゼピン長期内服1 (CLB 30mg/day, CZP 1mg/day)
- 一流施設 (福岡山王病院・産業医科大学) 受診あり

代表症例

54歳男性 GH通所中,療育手帳B1取得
VPA 200mg/day 内服中

小児期にてんかんとして治療を受けた。10歳時に内服中断。
13歳で発作再燃（発声→全身けいれん）
最終発作13歳
VPA 600mgで治療開始、抗てんかん薬漸減 現在に至る

発作が起きないか不安を感じている
？年齢依存性てんかんではないのか
？治療を継続していても、担当医師はなんら誹りをうけない
？不要な投薬の可能性が高ければ、説明すべきではないか

てんかん再燃のリスクをゼロにすることはできないが
膨大な医療費削減につながるのではないか。

拠点病院

ベンゾジアゼピン減薬
抗てんかん薬治療終結

- 自ら症状を訴えられず受診困難な患者について

障害者施設医師—拠点病院医師を結ぶD to Dの遠隔医療

→遠隔医療プロバイダー導入

- 「拠点病院と協力して抗てんかん薬治療終結する」
- 「拠点病院と協力してベンゾジアゼピンを終了する」

ことに膨大な保険点数を付与する

知的障がいのあるてんかん患者について

- 厚生労働科学研究によれば、知的障がい通所施設においては、本邦においてもてんかんの患者が多いことが明らかとなり、何らかの介入が必要と思われる症例が一定数いた。
- 知的障がい者のてんかんに対する診断、治療は容易ではなく、てんかん診療拠点施設との診療連携が求められている。

厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)分担研究報告書 てんかんの地域診療連携体制推進のためのてんかん診療拠点病院運用ガイドラインに関する研究

【研究の背景と結果】

太組分担班:ポリファーマシーと障害児入所施設(対象に成人を含む)

- ・ 自身の主訴を伝えることが難しい知的障がい者のてんかん医療に着目して、知的障がい児入所施設(1施設)を調査対象とした調査を行ったところ、「てんかん」の病名がつけられ、抗てんかん薬投与をされていた患者は23%であった。
- ・ 少なくとも17%程度が真のてんかんであると考えられた。
- ・ 聞き取り調査対象の15名中、薬剤調整など何らかの介入が必要と思われる例は10例であった。(非てんかんと思われるものが2例、明らかな発作コントロール不良は2例(3剤以上服用)、診断が適切か不明のものが2例、ベンゾジアゼピン系薬剤使用が2例、薬剤減量の検討できるものが2例)

【結果を踏まえた考察】

- ・ てんかんの有病率は0.8%程度である。知的障がい通所施設に通所するてんかん患者が多い(諸外国の資料でも同様)
- ・ 知的障がい者のてんかん診断は容易ではない
- ・ パイロット調査でも、ベンゾジアゼピン単剤による長期処方事例がみられた。ベンゾジアゼピン長期服薬には身体依存や急性離脱症状などの問題がある。
- ・ 患者の投薬調整は容易ではなく手間もかかる
- ・ 利用者が、適切にてんかん診療の恩恵を享受し、最新てんかん診療と結びつけられるために、障がい児入所施設(対象に成人を含む)とてんかん診療拠点施設との診療連携が構築されることが望ましい(障がい児入所施設は福祉型260施設(児童入所数5,444名・18歳以上入所数1,500名)・医療型268施設(児童入所数3,283名・18歳以上18,141名)である(労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課障害児・発達障害者支援室調べ。平成31年3月26日時点))。

39

第504回 (令和3年12月8日) 中医協資料から

令和4年度診療報酬改定 III-4-5 難病患者に対する適切な医療の評価-④

知的障害を有するてんかん患者の診療に係る遠隔連携診療料の見直し

遠隔連携診療料の評価等の見直し

- 遠隔連携診療料の対象患者に、知的障害を有するてんかん患者が含まれることを明確化し、知的障害を有するてんかん患者について、かかりつけ医とてんかん診療拠点病院等の医師が連携して当該患者に対する診療を継続する場合の評価を新設する。

現行	改定後
<p>【遠隔連携診療料】 500点</p> <p>【算定要件】 注1 略 (新設)</p> <p>【施設基準】 (2) 遠隔連携診療料の対象患者 イ (略) □ てんかん(外傷性のてんかんを含む。)の疑いがある患者</p>	<p>【遠隔連携診療料】 (改) 1 診断を目的とする場合 750点 (改) 2 その他の場合 500点</p> <p>【算定要件】 注1 略 2 2については、別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において、てんかん(知的障害を有する者に係るものに限る。)の治療を行うことを目的として、患者の同意を得て、てんかんに関する専門的な診療を行っている他の保険医療機関の医師に事前に診療情報提供を行った上で、当該患者の来院時に、情報通信機器を用いて、当該他の保険医療機関の医師と連携して診療を行った場合に、当該診療料を最初に算定した日から起算して1年を限度として、3月に1回に限り算定する。</p> <p>【施設基準】 (2) 遠隔連携診療料の対象患者 イ (略) □ てんかん(外傷性のてんかん及び知的障害を有する者に係るものを含む。)の疑いがある患者</p>

21

Purple Day Light up Project

In Kanagawa 2022

